

統計データから

我が国の種苗の販売市場規模と輸入状況

我が国における種苗産業の市場規模は、2,600 億円程度と推計される(表-1)。そのうち、野菜の種苗販売規模が最も多く約1,700 億円で、全体の65.8%を占める。

野菜種子については、国内流通の約9割が国外で生産され、我が国における種苗輸入額の約半数を占めている(表-2)。これら海外産は、日本の種苗会社が開発した優良品種の良質な種子を合理的な価格で安定的に供給するためのものである。種子生産に適した北・南半球の複数国でリスク分散して生産を行い、加えて、約1年分を国内で備蓄するなど、安定供給体制を確保している(表-3)。

次いで、輸入額が多いのは花き類で、球根が輸入額の17%、草花が8%。また、とうもろこしが8%、飼料作物が6%となっている。

一方、穀類、果樹の種苗は、ほぼ全量が国内で生産されている。稲、麦、大豆、ばれいしょ等の主要農作物の種子は、農研

機構や都道府県の試験場が開発した優良な品種の原原種を元にして国内の種苗生産地で段階的に増殖され、供給されている。

果樹の苗は、農研機構や都道府県の試験場等が開発した優良な品種の母樹の穂木(枝)を国内で他の品種(台木)に接いで増殖し苗木に仕立てられ、供給されている。

気候変動等の影響により、今後新たな採種適地の開拓を進めていく必要があるが、乾燥した気候や、同様の種属が栽培されていない圃場間隔が取れる山の谷間や離島等、交雑しない環境が必要である。また、野菜の採種では、通常の青果物生産と異なり手間と時間を要する。そこで、効率的な採種に向けた技術、例えば、F1種子を効率的に生産するため、温度管理や薬品処理により母系統の花粉を不活化する技術や、日長や温度等の環境条件を制御する開花促進技術などの開発・導入が求められている。(K.O)

表-1 我が国の種苗販売市場規模

品目	販売額(億円)
穀物	311.8
果樹	266.5
野菜	1,689.8
花き	300.3
合計	2,568.4

資料：JATAFF

「令和2年度種苗産業動向調査」

表-2 我が国における種苗の輸入額

品目	割合
野菜	49%
球根	17%
とうもろこし	8%
草花	8%
飼料作物	6%
きのこ菌類	3%
穀物類	3%
てん菜	2%
豆類	1%
その他	4%

(2024年)

表-3 野菜種子の輸入元国

国名	輸入額(百万円)	数量(トン)
チリ	6,325	413
アメリカ合衆国	3,226	850
南アフリカ共和国	2,786	227
中華人民共和国	2,235	373
イタリア	1,746	405
タイ	895	54
ニュージーランド	795	294
デンマーク	631	389
ペルー	630	5
インド	548	59
その他	2,872	254
合計	22,689	3,322

財務省「貿易統計」、表-2の野菜の種子の輸入元を示す。